



Release10.5 の 新機能と変更点

このドキュメントでは、Unify NXJ Release 10.0 A から 10.5 における新機能および変更を紹介しています。

Release 10.5D

新規機能と機能強化	
機能	機能要素
N X J アプリケーションデザイナー	
editAction の新しいデフォルト値	すべてのレコード移動コマンドのデフォルトの editAction プロパティの設定が editAction_ACCEPT に変更されました。この変更により、フィールドへのすべての変更は、繰り返し領域中の変更中のレコードから、他のレコードへの移動の方法に関係なく、保存されることとなります。詳しくは、『Unify NXJ プログラミング言語ガイド』4 章「開発者定義コマンド宣言」を参照して下さい。
レコード更新のパフォーマンス改善	NXJ インタラクショナルサーバにおいて、変更されていないレコードのサーバ側での処理を行わないようにすることにより、追加/更新操作の実行時パフォーマンスが改善されました。さらに、新しい Batch Record Changes プロパティにより、データビューのすべてのレコードの更新をさまざまなチェックポイントにおいて、バッチ的に NXJ インタラクショナルサーバで実行するよう指定できるようになりました。詳しくは、『Unify NXJ 開発者ガイド』4 章の「バッチレコード更新」を参照して下さい。
ナビゲーションバーのカスタマイズ	データビューのナビゲーションバーに表示されるテキストをカスタマイズすることが可能になりました。詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』4 章の「データビューを作成」を参照して下さい。
カスタマイズ可能なタイムアウトおよびエラーページ	Unify NXJ アプリケーションで使用する、独自のカスタマイズされたタイムアウトおよびエラー JSP (または HTML) を指定することが可能になりました。詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』3 章の「NXJ 組み込みページのカスタマイズ」を参照して下さい。
進捗ダイアログ	NXJ インタラクショナルサーバがコマンドを実行している間、実行時に進捗ダイアログを表示するかどうかを指定できるようになりました。詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』3 章の「プロジェクトプロパティ」を参照して下さい。
CLEAR TO ADD 時のフィールド初期化	CLEAR TO ADD 実行時に各フィールドを自動的に null 以外の値に初期化することができるようになりました (数値フィールド: 0、文字列フィールド: ""、日付フィールド: 1970/01/01 など)。すべてのフォームのすべてのフィールドで clearAddExp を設定し、この操作を行う必要がなくなりました。詳細は、『Unify NXJ 開発者ガイド』3 章の「application.properties ファイル」を参照して下さい。
エディタと言語の改善	
displayToMessageBoxWait メソッド	NXJSession クラスの displayToMessageBoxWait メソッドが、警告アイコンに加えて情報アイコンも表示できるようになりました。詳細は、Unify NXJ Form Processing Javadoc の displayToMessageBoxWait を参照して下さい。
開発者定義コマンドのコマンドパラメータ	開発者定義コマンドにパラメータを指定することが可能になりました。これにより、1つのコマンド定義でパラメータの値に応じて動的にコマンド実行することが出来るようになります。詳しくは、『Unify NXJ プログラミング言語ガイド』4 章「開発者定義コマンド宣言」を参照して下さい。
NXJSession の exitToURL メソッド	NXJSession クラスに exitToURL メソッドが追加されました。このメソッドにより、アプリケーション終了時に、web ブラウザセッションを閉じる代わりに、指定した URL へ遷移することが可能になります。詳細は、Unify NXJ Form Processing Javadoc の exitToURL を参照して下さい。

コンポーネントにおける明示的なフォーム参照	明示的なフォーム参照 (form#var) が、コンポーネントのプログラム言語スクリプトで使用できるようになりました。
新しい TabSet ページへのアクセスメソッド	スタンドアロンデータビュー上のタブセットコントロールの現在のページを動的に指定することが可能になりました。setTabPageProperty は、ページプロパティのみが指定可能なことを除いて、setNXJControlProperty と同様に使用できます。setCurrentPage メソッドは、setNXJControlProperty(「タブセット名」、「カレントページ」、「ページ名」)の代わりに使用します。詳細は、Unify NXJ Form Processing Javadoc の setTabPageProperty を参照して下さい。
エディタパフォーマンスの改善	NXJ スクリプトエディタのリアルタイム構文チェックおよびコンパイルエラーレポート機能のパフォーマンスがさらに改善されました。
自動補完機能を無効にするオプション	必要に応じて、自動補完機能を使用しないように設定することができるようになりました。詳しくは、『Unify NXJ プログラミング言語ガイド』2章「スクリプトエディタ」を参照して下さい。
NXJ BPM	
アクティビティフォームのAcquire および Release コマンド	アクティビティフォームが作成される際に Acquire および Release コマンドが割り当てられたボタンがフォーム上に作成されるようになりました。これらのコマンドは、参加候補者がプロセスインスタンスを獲得またはリリースすることを可能にします。これにより、そのプロセスを他の参加候補者のプロセス一覧から取り除くことが出来るようになります。
サポートする構成	
Firefox web ブラウザ	Unify NXJ は Firefox web ブラウザをサポートするようになりました。詳しくは、『Unify NXJ がサポートする構成』を参照して下さい。

新規機能と機能強化

機能	機能要素
N X J アプリケーションデザイナー	
「アプリケーションが終了しました」ページが表示されなくなりました。	フォーム処理アプリケーションを終了した際に表示されていた「アプリケーションが終了しました」ページが表示されなくなりました。このページは、アプリケーションの再実行のオプションも表示していました。終了 URL プロパティを設定することにより、アプリケーション終了時に表示するカスタムページを指定することは引き続き可能です。詳細については『Unify NXJ 開発者ガイド』3章の「全般プロパティ」を参照して下さい。
グリッドコントロール機能強化	グリッドコントロールの実行時の動作、処理が機能強化されました。
BigDecimal データタイプのサポート	setBigDecimal および getBigDecimal メソッドが NullableAmount インタフェースに追加されました。詳細については、Unify NXJ Form Processing Javadoc を参照して下さい。
Oracle ヒント構文のサポート	フォームスクリプト中で、Oracle ヒント構文 “/*+...*/” を使用できるようになりました。このヒント構文には、Oracle データベースへの SQL 問合せのパフォーマンスを向上させる Oracle オプティマイザへの情報を記述します。詳しくは、Oracle データベースドキュメントを参照して下さい。
NXJ ポータル	
ルックアンドフィール	NXJ ポータルの配色、アイコン、デフォルトの表示が改善されました。これにより、管理者以外のユーザのデフォルトのポータル表示も合わせて改善されました。
個人ワークフローリスト	すべてのユーザが個人ワークフローリストを変更することが可能になりました。以前は、管理者のみがワークフローリストを編集可能でした。
ログアウトボタン	ログアウトボタンが NXJ ポータル画面に追加されました。これにより、ユーザは NXJ ポータルページから、ログアウト、ログインすることが可能になりました。以前は、ブラウザウィンドウを閉じて、NXJ ポータルからログアウトする必要がありました。
NXJ BPM	
NXJ ポータルからの BPM ポータルへのアクセス	NXJ ポータルから BPM ポータルへアクセスすることが可能になりました。これにより、すべての NXJ ベースのアプリケーションに対して、シングルサインオンの環境を提供することが可能になりました。
プロジェクトにおいて BPM Jar を利用するかどうかの指定	プロジェクトに BPM Jar ファイルを含めるかどうか指定することが可能になりました。これは、プロセス定義がプロジェクトに含まれる場合に必要になります。また、BPM Jar ファイルをアプリケーションパッケージに含めるかどうかも指定可能です。詳しくは、『Unify NXJ 開発者ガイド』3章の「プロジェクトの作成」を参照して下さい。
プロセス開始 アクティビティフォーム	プロセスを開始する BPM アクティビティフォームが、エントリポイントリストに個別に表示されるようになりました。
プラットフォームサポート	
ロシアのロケールのサポート	Unify NXJ は windows-1251 エンコーディングをサポートするようになりました。

新規プラットフォームコンポーネント

NXJ ポータルサーバ

NXJ ポータルサーバは、標準準拠の機能を完備したエンタプライズポータルで、情報およびアプリケーションのユーザ展開においてインターフェイスの集約、パーソナライズ化に役立ちます。この機能は、独立したエンタプライズ資産である NXJ フォーム、NXJ BPM、NXJ Web サービス、NXJ レポーティングおよびその他のすべての Web コンテンツを単純に統合するポートレットビルダーにより実現されています。

注) 日本語環境では、NXJ レポートの機能は、対応されていません。

NXJ Web サービス

NXJ Web サービスは、業界標準である Systinet 社の WASP に基づくサービス指向アーキテクチャ (SOA) 実施のための開発および配備環境です。NXJ Web サービスでは、Java および J2EE ベースアプリケーションである Web サービスの生成、配備、管理を使いやすく、高いパフォーマンスで行うことができます。Web サービスは、すべてのメジャーな Java アプリケーションサーバ複数台に配備されるものでも、NXJ Web サービスが置かれているサーバにスタンドアロンで配備されるものでも、どちらでも構いません。Web サービスは、最大のパフォーマンスと .NET および Web サービス セキュリティ標準との相互連携を可能にします。

注) 日本語環境では、この機能は対応されていません。

NXJ アプリケーション統合

NXJ アプリケーション統合は、統合サービスを構成、管理するための機能を完備した開発・配備環境です。NXJ アプリケーション統合は、J2EE JCA 仕様により構築されており、SAP/R3、PeopleSoft、Oracle EBS、JD Edwards、CICS、Siebel との接続アダプタを持っています。

注) 日本語環境では、この機能は対応されていません。

新規機能と機能強化

機能	機能要素
N X J アプリケーションデザイナー	
コントロールの再利用	この機能により、新規および既存のフォームとフォームコントロールからなる新規のアプリケーションを簡単に構築することができます。NXJ のモジュールデザイン環境を使うことで、既存資産の最大限の利用を図ると同時に将来の機能強化・メンテナンスコストを最小限にするという重要な課題を解決することができます。NXJ 10.5 は、複数のプロジェクトにまたがる複数のアプリケーション コンポーネント間で再利用できるフォームおよびフォーム コントロールを定義することができるようになりました。これらの再利用可能なコンポーネントは、サブクラス化あるいは拡張されて、より早く、より標準ベースの開発、配備環境を提供します。Unify NXJ 開発者ガイドの第 9 章で「再利用可能なフォームとコントロールの作成」と Unify NXJ チュートリアル9のレッスン 9 を参照してください。
リポジトリ ライブラリ	NXJ アプリケーション コンポーネントは、共有のリポジトリ ライブラリに保存されるようになったので、アプリケーション、プロジェクト、チーム、組織をまたがってコンポーネントの再利用が可能になりました。ライブラリにあるすべてのコンポーネントとリソースを、簡単にどんな NXJ フォーム、コンテナにでも追加、再構成することができます。リポジトリ ライブラリを使うことで、NXJ プロジェクトをまたがる一般的な再利用機能のメカニズムの容易な管理と使用が可能になります。Unify NXJ 開発者ガイドの第 3 章で「プロジェクトライブラリの作成と参照」を参照してください。

アクティビティ フォーム	NXJ フォームを、追加のプログラミングを一切せずに BPM プロセス定義にマッピングすることができるようになりました。この新機能により、プロセス アクティビティのデータ（オペランド）が簡単に表示、操作できるようになりました。「NXJ フォームアプリケーションでの BPM 使用」を参照してください。
--------------	--

アプリケーションユーザインタフェース

日付取得コントロール	NXJ 10.5 では、日付選択コントロールにより、ユーザはカスタマイズ可能なカレンダーから日を選択して Date フィールドへの入力ができます。このコントロールでは、色、曜日と月の言語をカスタマイズすることが可能です。Unify NXJ 開発者ガイドの第 5 章で「日付取得コントロール」を参照してください。
グリッドコントロール	NXJ 10.5 には、グリッドコントロールと呼ばれる全く新しい繰り返し領域オブジェクトが追加されました。この新しいグリッドコントロールでは、リストおよびフィールド形式の繰り返し領域と全く同じ機能を実現すると同時に、実行時に列での自動ソート、列幅変更、列の配置換え、縦スクロールバーができるようになりました。Unify NXJ 開発者ガイドの第 5 章で「繰り返し領域コントロール」を参照してください。
カスケードメニュー	NXJ 10.5 では、カスケードメニューのデザインのためのシンプルで感覚的に使える機能を用意しました。開発者は、これらのメニューの自由なノードにシステムコマンドあるいはユーザ定義コマンドを追加したり、ビジネスロジック・セキュリティロジックに従って実行時に動的にメニューを構成できるようになりました。これらのメニューはビルトインスキンを活用できますし、あるいは、利用者は標準のカスケードスタイルシートにより Look and Feels をカスタマイズできます。Unify NXJ 開発者ガイドの第 5 章で「メニューおよびツリーコントロール」を参照してください。
ツリーコントロール	静的および動的なツリーコントロールが、アプリケーションロジック・データをツリー構造に表現するために使えるようになりました。ツリーコントロールは、開発環境において定義された静的ツリーとして使えます。また、カスタムメニューやデータの関連性を表現するために実行時に変更・構成することもできます。ツリーコントロールは、新しい onExpand、onSelect のイベントコードセクションをサポートすると同時にシステムコマンド、カスタムコマンドもサポートします。Unify NXJ 開発者ガイドの第 5 章で「メニューおよびツリーコントロール」を参照してください。これらのコントロールは、動的にビルドすることができます。NXJ フォームプロセッシング JavaDoc の NXJ ツリーコントロールを参照してください。
カスタムコントロール	開発者は、自作のカスタムのコントロールを生成して、NXJ デザイナに追加することができるようになりました。これらのコンポーネントは、Java Swing（視覚表現）と JavaScript（機能操作）の組み合わせでできています。カスタムのスピナーコントロールの例を「JavaScript の使い方」を参照してください。

エディタと言語の改善

スクリプト構造 アウトライン	スクリプト構造の改善されたアウトラインが、スクリプトエディタのアウトラインタブ内に表示されるようになりました。Unify NXJ プログラミング言語ガイドの第 2 章を参照してください。
リアルタイム シンタックス チェック	ソースコードを入力すると同時に解釈されてコード シンタックス チェックが行われるようになりました。コンパイルエラーは、アウトラインタブ内のエラーフォルダに表示されます。
コード補完の改善	すべての外部、内部オブジェクトはエディタ内に含まれるようになりました。クラス、メソッドの自動補完を選択した後に、カーソルが自動的に正しい位置に戻るようになりました。Unify NXJ プログラミング言語ガイドの第 2 章を参照してください。

トラバーサル再利用	コンポーネント再利用を活用した効率的な開発をサポートするために、NXJ アプリケーションデザイナーは、親クラスの定義に移動する機能を実装して、再利用するコンポーネントのソースをすぐに編集することができるようにしました。
データベース接続証明	ユーザ名とパスワードがデータベース接続に指定できるようになりました。NXJ フォームプロセッシング JavaDoc の NXJ セッションファウンデーションクラスの openConnection メソッドを参照してください。
MS SQL の ストアドプロシジャー	EXEC SQL 構文を使ってマイクロソフト SQL サーバのストアドプロシジャーを起動することができるようになりました。
NXJ レポートینگ	
クリスタルレポート コンバージョン	お持ちのクリスタルレポートの定義を NXJ レポートینگへの変換を支援するプログラムが追加されました。 注) 日本語環境では、この機能は対応されていません。
BPM データソース	処理中の BPM プロセスからデータを取り出してレポートを作成するためのカスタムデータソースがレポートینگに追加されました。 注) 日本語環境では、この機能は対応されていません。
NXJ Business Process Management (BPM)	
アクティビティフォーム	NXJ フォームを BPM プロセス定義に対してプログラミング無しでマッピングすることができるようになりました。この新しい機能により、プロセスアクティビティのデータ (オペランド) を簡単に表示、操作することができますようになりました。「NXJ フォームアプリケーションでの BPM の使用」を参照してください。
NXJ アプリケーション デザイナーとのより緊密な 統合	BPM プロセスを NXJ アプリケーションデザイナー環境から生成して、NXJ プロジェクトに保存できるようになりました。
プラットフォームサポート	
Mozilla Web ブラウザ	NXJ 10.5 は、Mozilla 1.6 をサポートします。

Release 10.3

新規機能と機能強化	
機能	機能要素
プラットフォームサポート	
WebLogic 8.1	NXJ 10.3 は、Weblogic 8.1 のサーバとポータルをサポートします。
JBoss 3.2.3	NXJ 10.3 は、JBoss 3.2.3 をサポートします。

Release 10.2

新規プラットフォームコンポーネント	
NXJ レポートینگ	
<p>NXJ レポートینگは、多機能なレポートینگコンポーネントです。テーブル、ラベル、文、クロスタブ、フォームレター、グラフを含むレポートを書くことができます。レポートの出力フォーマットは、HTML、ダイナミック HTML、XML、テキスト、PDF、CSV、電子メール、Microsoft Excel、PostScript です。詳細については、NXJ Documentation Welcome ページの NXJ Reporting のセクションを参照してください。</p> <p>注) 日本語環境では、この機能は対応されていません。</p>	

NXJ Business Process Management (BPM)

NXJ Business Process Management は、人対人、人対システム、システム対システムの工程を含むエンドツーエンドビジネス処理を実現するためのデザインおよび配備環境です。NXJ BPM コンポーネントは、Web サービス編成からワークフローオートメーション、ビジネスプロセス Management への理想的なソリューションです。詳細については、NXJ Documentation Welcome ページの NXJ Business Process Management のセクションを参照してください。

新規機能と機能強化

NXJ ツールスイート管理

NXJ ワークベンチ	NXJ は、様々な NXJ ツールに共通のアクセスポイントを提供するワークベンチをインストールします。ワークベンチにアクセスするには、スタート > プログラム > Unify NXJ > ワークベンチ を選択します。
------------	--

NXJ アプリケーションデザイナーの機能性

Windows XP の look and feel	NXJ アプリケーションデザイナーは、マイクロソフト Windows XP の look and feel になりました。
ノートページのようなエディタ	コンテンツパネルの各オブジェクトは、ノートブックタブによってアクセスされます。複数のタブは、複数行を重ねるか、スクロールボタンのどちらかでアクセスするように校正することができます。タブは、オブジェクトの同時編集の管理をより簡単にすることができます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第2章「NXJ Application Designer Main Window」の「Content Panel」を参照してください。
マウスホイールのスクロールをサポート	NXJ アプリケーションデザイナーは、マウスホイールのスクロール動作を認識します。

データアクセス

明示的なモード	新しいフィールドコントロールプロパティは、検索条件が String か Text ターゲット列に指定されたとき、曖昧な、または正確な比較のどちらを実行するのかを決定します。曖昧な比較は、検索条件にワイルドカード “match any” メタキャラクタ (\$ や *) を追加します。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Database Properties」の「Exact or Fuzzy Searches」を参照してください。
---------	--

言語機能

queueNextForm メソッドによって指定する接続	NXJSession クラスの queueNextForm メソッドは、親フォームや設計時に指定したものと異なるデータベース接続を使ってフォームを開始するのを許す connectionName 引数をサポートします。以前では、待ち行列された次フォームは、設計時に指定したコネクションを使えるだけでした。 NXJ Javadoc の NXJSession クラスを参照してください。
clearFindExp に、不等号と NULL 演算子の追加	clearFindExp は、不等号と NULL 比較をサポートします。 『Unify NXJ Programming Language Guide』の第3章「Using NXJ Variable Properties」を参照してください。
カスタム挿入 / 更新 / 削除操作	プログラミング言語は、組み込み NXJ DataView クラスの挿入 / 更新 / 削除操作をオーバーライドすることを認めるメソッドを提供します。 NXJ Javadoc の NXJ DataView クラスの挿入、更新、削除メソッドを参照してください。

ローライゼーション	
フィールドの入力方式エディタ (IME) モード	Unify NXJ は、フィールド基準によるフィールドで、IME がデータ入力に自動的に起動されるかどうかを指定することができます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Text Properties」の「IME Mode」を参照してください。
プラットフォームサポート	
J2EE 1.3 の互換性	NXJ フォームアプリケーションは、J2EE バージョン 1.3 の Web アプリケーションとして作成されます。

Release 10.0B

新規機能と機能強化	
機能	機能要素
プラットフォームサポート	
WebSphere 5.0 サポート	NXJ は、データソースの自動生成、コントロールセンタ、自動配備とデバッグのフルサポートを含めて、WebSphere 5.0 Application Server に対応します。
パフォーマンス	
ディスク上でキャッシュされる選択セット	NXJ アプリケーションは、さまざまなアプリケーションのパフォーマンスが、障害を生じさせないように大量の選択セットをディスクにキャッシュするように構成することができるようになりました。NXJ の以前のバージョンでは、選択されたレコードのすべては、メモリに組み込む必要がありました。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第4章「Customizing the Built-in Form Behaviors」の「Cache Large Selected Sets to File」を参照してください。
インストール	
JBoss は、Windows 上でシステムサービスとしてインストールされる	NXJ インストールプログラムは、デフォルトでは MS Windows ホスト上にシステムサービスとして JBoss をインストールします。Windows システムサービスとして、システム開始時に自動的に JBoss を開始、またはコマンドラインから JBoss を実行することができます。 『NXJ Installation and Getting Started Guide』を参照してください。
Portal Integration	
NXJ Portal Integrator	NXJ アプリケーションは、WebLogic と Oracle ポータルのポートレットとして実行することができます。ポータルは、機能に富んだ Web サイトになります。これにより、NXJ アプリケーションエンドユーザが利用する各種アプリケーションおよび情報を統一されたインターフェースとして提供する企業ポータルに、NXJ アプリケーションを統合することができます。 NXJ Documentation Welcome ページの「Running NXJ Applications as Portlets」ガイドを参照してください。
データアクセス	
Null 検索	ユーザは、@ オペレータを指定することによって、フィールド内の Null 値を検索することができます。非 Null 値は、!@ を指定することで検索されます。

ローライゼーション

ローライズ可能なアプリケーション情報フィールド	NXJ は、record_count と record_number のようなアプリケーション情報フィールドのために、ローライズされたテキストを提供することを可能にします。 NXJ Documentation Welcome ページの「Localizing an Application」ガイドを参照してください。
-------------------------	--

Release 10.0A

新規機能と機能強化

機能	機能要素
プラットフォームサポート	
Jboss アプリケーションサーバ	NXJ は、デフォルトの組み込みアプリケーションサーバとして オープンソース JBoss パージョン 3.2 を含んでいます。
Weblogic 7.0 サポート	Weblogic 7.0 をサポートします。
Oracle 9iAS サポート	Oracle 9iAS をサポートします。
MySQL サポート	MySQL をサポートします。
JDBC データベースサポートを追加	NXJ は、業界標準 JDBC ドライバの大部分をサポートすることになります。これらのドライバは、リリースの一部として含まれていませんが、コネクションパネルで Other オプションを使用して構成することができます。
アプリケーションユーザインタフェース	
LOV、リストボックスの動的設定	このリリースの NXJ では、実行時に動的にリストボックスを設定する機能や、必要に応じて表示されているリストボックスをリフレッシュして、値を更新することが可能となります。例えば、自動車メーカーのリストボックスがあり、そこから FORD を選択した場合 ON DATA ACCEPT イベントによって、車種のリストボックスを FORD にある車種のみを更新することができます。 『Unify NXJ Programming Language Guide』の第 3 章「Examples of Accessing Fields」を参照してください。
繰り返しリスト領域の新機能と機能改善	リストボックス形式の繰り返し領域は、1 行おきに異なるカラーを持つことができます。リストボックスは、データビューの FIND COUNT プロパティに定義された数の行数のみを持つようになります。レコードの次のセットでは、リストボックスには FIND COUNT の行数分のレコードの次セットを含むようになります。これにより、リストボックスに読み込んだ項目が多すぎてブラウザがメモリー不足でクラッシュすることを防ぎます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 4 章「Find Count」と第 5 章の「Repeating Area Controls」を参照してください。
デフォルトコマンド	NXJ は、ユーザが RETURN キーを押下したとき実行されるフォーム、もしくはデータビューの Default コマンドを定義することができます。ユーザはデフォルトコマンド実行時のデフォルトの動作を定義することができます。『Unify NXJ Developer's Guide』の第 4 章「Specifying the Default Command」を参照してください。
自動ステイプル	イメージとボタンのステイプルは、自動的にすべてのシステムとユーザ定義コマンドに対して適応されます。
Exit URL	アプリケーションが終了する時、ターゲット URL に有効な URL を割り当てる機能を提供する exit URL 機能を改善しました。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 3 章「Project Properties」の「General Properties」を参照してください。

国際化の改善	システムメッセージの国際化の改善と、java リソースファイルからメッセージを獲得するための機能が改善されました。
JavaScript 外部リンク	JavaScript に 外部 "link" タグを追加する機能を拡張しました。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with JavaScript」ガイドを参照してください。
ツールバー / テーブルに壁紙のサポートを追加	テーブル、ツールバー、フォームに対して壁紙を設定することができます。
Zoom もしくは List OF Value(LOV) フォームのモーダル	NXJ のこのリリースでは、Zoom フォーム か LOV フォームは、モーダルです。モーダルでは、ズームフォームか LOV フォームが閉じられない限り、呼び出したフォームにフォーカスを移すことができません。
レコードセットのナビゲーション	レコードセットナビゲーションのプログラムの制御が改善されました。
繰り返し領域に動的リンクを追加	動的リンクを繰り返し領域に追加することができるようになります。リンクをクリックすると、Link Command や URL が実行される前にリンクに割り当てられたレコードがフォーカスを得るようになります。
戻る ボタンで、前フォーム	ブラウザの戻るボタンを押下すると、前フォームを実行します。最初のフォームであれば exit の実行になります。ブラウザの戻るボタンは使用できないという警告は、今後は発生しません。
ブラウザリフレッシュサポート	リフレッシュは、アプリケーションの再スタートではなく、ページの再描画のみを行います。
ポップアップフォームの機能改善	実行時、ポップアップフォームの場所を制御することができます。これは、実行時の位置だけでなくアプリケーションデザイナーで割り当てられた事前に設定された値も含まれます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 4 章「Customizing Form Appearance」を参照してください。
インフォメーションフィールド	繰り返し領域の record count が改善されました。
ロールオーバーイメージのイメージボタンとリンクでのサポート	NXJ は、ボタンとリンクにロールオーバーイメージを定義するための使いやすいインタフェースを提供します。アプリケーションデザイナーは、イメージとロールオーバーイメージに対するプロパティを持ちます。これらのイメージは、NXJ の完全なローカライズ機能もサポートします。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 5 章「Button Controls」、「Image Controls」、「Link Controls」を参照してください。
ステイプルの改善	コマンドがアクティブでない場合、Zoom/LOV ボタンは、自動的にステイプルになります。
フォーム移動時にフィールドの値全体を選択	テキストフィールドを移動すると、テキストフィールド内の値全体が選択された状態になります。
ダブルクリックイベント	NXJ はフィールド等のオブジェクトに対するダブルクリックイベントを追加する機能を提供します。ダブルクリックイベントは、NXJ コマンド、もしくは JavaScript 関数で可能になります。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 5 章「Interactive Properties」の「Command to be Executed by Double-Clicking」を参照してください。
データ挿入の改善	実行時に New ボタンがクリックされた時、フォーカスがフォーム内の最初のフィールドに設定されます。
Table の改善	アプリケーションデザイナーで HTML table に重要な改善がありました。
ブラウザのステータスバーにメッセージ	FYI メッセージが、ブラウザのステータスバーに表示されるようになります。FYI は、NXJ アプリケーションの各オブジェクト (field, link, button 等) で可能な静的または、動的なディスクリプタです。これは、ポップアップメッセージとは別に使用可能です。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 5 章「Interactive Properties」を参照してください。

<p>GUI コントロールとスタイル プロパティへのプログラムからのアクセス</p>	<p>ラベル、ボタン、その他のオブジェクトのプロパティを、実行時に変更することが可能になりました。例えば、すべてのオブジェクトの色、フォント、外観等を変更することができます。NXJ コマンドは <code>object.setNXJControlProperty</code> です。グラフィカルオブジェクトの Trim や修飾すべてを NXJ コードから扱えます。例えば、ラベルやボタン等の可視/不可視、カラー/フォント/サイズを NXJ アプリケーションのビジネスロジック内で変更することができます。この機能の有効な使い方として、繰り返し領域のフィールドへ NOT Visible を設定しておき、BEFORE FORM コードセクションにそれぞれのフィールドに対して <code>DATAVIEW.FIELDNAME.setVisibleForAllRecords(true)</code> を追加する手法があります。実行時、レコードを持つフィールドだけが表示され、ナビゲーションツールバーは、適切に現れたり消えたりします。 NXJ Javadoc の NXJControl Interface を参照してください。</p>
<p>JavaScript から NXJ コマンドにアクセス</p>	<p>カスタム JavaScript から呼び出されて、NXJ フィールドに値をセットすることが可能なコマンドが追加されました。これにより最適化されたリクエストの一部としてサーバに新しい値が渡されるようになります。 <code>(setNxjFieldValue('field1.','newvalue');callNxjCommand('yourCommand'))</code> NXJ Documentation Welcome ページの「Working with JavaScript」ガイドを参照してください。</p>
<p>ノートページがカレントになるとき NXJ コマンド、JavaScript 関数を実行</p>	<p>タブページがカレントになる時に実行されるコードセクションが新しく追加されました。この Tab Selected Commnad は、アプリケーションデザイナーのノートページプロパティとして公開されます。NXJ システムコマンドやユーザの定義コマンドと同様に JavaScript 関数も、新しい "Selected Commnad" に割り当てることができます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Tab Set Controls」を参照してください。</p>
<p>数値と文字列のフォーマット</p>	<p>NXJ は、カスタムな数値と文字列のフォーマットを定義する機能が新しく追加されます。例えば、SSN、電話番号等があります。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Text Properties」の「Format」を参照してください。</p>
<p>"Google" のようなレコードナビゲーションセット</p>	<p>NXJ は、繰り返し領域に "Google" のようなナビゲーションバーが新しく追加されます。これはデータのレコード、もしくはページに基づいています。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Repeating Area Controls」を参照してください。</p>
<p>リストボックス動的リサイズ</p>	<p>リストボックスの幅を動的にリサイズします。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第5章「Repeating Area Controls」を参照してください。</p>
<p>Text/Binary サポート</p>	<p>NXJ は、TEXT と BINARY(CLOB/BLOB) のサポートを新しく追加しました。これは、データベースからこれらの値を読み取って、それらを NXJ フォームのオブジェクトに関連付けることを含みます。例えば、TEXT データを読み取り、それをフォームの TextArea に直接割り当てることが可能となりました。また、データベースからバイナリイメージを検索し、NXJ フォームのイメージオブジェクトにそれを割り当てることも可能です。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with Text and Binary Data」ガイドを参照してください。</p>

アプリケーション プロンプト (Yes/No)	NXJ は、処理の継続に関してユーザに入力させることで、アプリケーションの割り込み操作を実現可能になります。この機能は、コミュニケーションレイヤーに処理するため 2 つ目のステートレスセッション EJB をさらに実装する点が重要です。この機能では、デフォルトのプロンプトポップアップやカスタム設計された HTML ベーステンプレートを使って、Yes/No 型のプロンプトや複数から選択するプロンプトを表示することができます。これらのプロンプトは、定義した時間が経過したらデフォルトのレスポンスを行って、処理を戻すようにするタイムアウト時間を設定することができます。 『Unify NXJ Programming Language Guide』の第 5 章「Prompting for User Input」を参照してください。
カスタムツールバー	アプリケーションに簡単にカスタムツールバーを作成する機能が追加されました。アプリケーションデザイナーでカスタムツールバーを作成できます。JSP ファイルをツールバーに指定することもできるようになりました。この新しいツールバーは、ボタン、リンク、動的メニュー等を含むことができます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 6 章「Creating a Custom Toolbar, Header, or Footer」を参照してください。
NXJ フォームへの埋込み JavaScript オブジェクト	NXJ フォームの上に JavaScript オブジェクトをドラッグアンドドロップすることができるようになります。これには、カレンダー、計算機等のようなものが含まれます。このインタフェースにより、新しい JavaScript オブジェクトの配置を定義し、それから 外部 JavaScript ファイルを "インクルード" するか、NXJ JSP コードに JavaScript を埋め込むことができます。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with JavaScript」ガイドを参照してください。
カスタムコントロールの 改良	プロジェクトに複数のカスタム look and feel (LAF) を定義することが可能になりました。また異なる LAF の選択をベースにしたプロジェクトを構築することができます。これには、異なるイメージ、カラー、フォント、スタイル (任意のカスケード スタイル シート "CSS" 設定) が含まれます。この機能は、ひとつのアプリケーションによって、使用する顧客毎に異なるブランドイメージを提供することが必要な場合には重要なことです。このブランド (カラー、イメージ、フォント等の変更) は、コンパイル時、または配備時に変更することができます。 NXJ Documentation Welcome ページの「Changing Look and Feel Definitions」ガイドを参照してください。
カスケード スタイルシートの フルサポート	NXJ は、URL ベーススタイルシートの使用と同様に、ファイルから標準カスケードスタイルシート (CSS) を使用できます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 6 章「Using Style Sheets」を参照してください。
次フォーム ナビゲーション	NXJ は、フォーム名か動的な文字列値を使用して次フォームへナビゲートすることができるようになります。このフォームが、next form list に存在する必要はありません。(session.chooseNextForm("formname");NXJ Javadoc で NXJSession ファウンデーションクラスの queueNextForm メソッドを参照してください。
チーム開発	
チーム開発	NXJ エンタープライズエディションでは、CVS バージョンコントロールを使用して、チーム開発の統合サポートを提供します。これにはチェックイン、チェックアウト、マージ、差分等を含みます。この統合は、CVS ファイルシステムと CVS Pserver で動作します。 NXJ Documentation Welcome ページの「Using Source Control for Projects」ガイドを参照してください。

再利用

マスタプロジェクト	NXJ は、他のプロジェクトからオブジェクトを利用できるようになります。これにより、共通のオブジェクト/コンポーネントによるベースプロジェクトを持ち、それを他のプロジェクトで再利用することができます。再利用することができるオブジェクトには、ズームフォーム、次フォーム、コネクション、フッター、ヘッダーやツールバー等があります。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第3章「Master Projects」を参照してください。
-----------	---

データアクセス

EXEC SQL での ストアードプロシジャー 呼び出し	NXJ は、EXEC SQL CALL procedure 構文でストアードプロシジャーとパッケージを呼び出す機能が追加されました。これは、ストアードプロシジャーにデータベースに対するたくさんのビジネスロジックを持つ Oracle PL/SQL ユーザにとって非常に重要です。 NXJ Documentation Welcome ページの「Calling Stored Procedures」ガイドを参照してください。
カスタムデータソース	NXJ は、非常に重要なカスタムデータソースのサポートを追加しました。これにより、カスタマーは関連付けしていないデータに NXJ 機能をマップすることができます。例えば、Java クラスのセット、Web サービス、EJB 等を示したデータソースを作成することができます。この値と機能 (find, add, update, insert, record set navigation) は NXJ アプリケーションへの簡単な統合のために開発者に公開されます。これらの新しいデータソースに定義されたフィールドは、JDBC データソースからターゲットフィールドのように扱われます。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with Custom Data Sources」ガイドを参照してください。
Null ハンドリング	NXJ アプリケーションのフィールドから値を削除した時、データベースには NULL の値で挿入/更新されるようになりました。これは、エンドユーザのために重要な機能です。
レコードロック機能強化	データベース操作の排他と共有 (XLOCK/SLOCK/UNLOCK) のサポートが追加されました。 『Unify NXJ Programming Language Guide』の第4章「Embedding SQL Statements」を参照してください。
EXEC SQL 文の status マップ	NXJ は、EXEC SQL 文に対する session.status をキャッチする機能を提供します。このステータスコードは、他のデータベース操作の標準 NXJ ステータスコードにマップされます。
最後のインタラクティブ Find コマンドへアクセス	NXJ は、対話型の問合せの一部として生成された最後の SQL 問合せに対するアクセスを開発者に提供します。例えば、ユーザが、FORD と 2002 年モデルの条件に該当するすべてのレコードを検索した場合、新しいデータビュー属性 sqlWhereClause は、問合せを再実行するために必要な WHERE 句を含んでいます。これは、最後の問合せの結果の選択セットをすぐに再ソートすることを可能にします。 NXJ Javadoc で NXJDataView ファウンデーションクラスの sqlWhereClause プロパティを参照してください。
メモリ上で選択セットの 再ソート	データベース呼び出しを行わずに、既存の選択セットを再ソートします。これにより、データビューがフォーム上で sortSelectedSet(FIRST_NAME, SortDirection) が実行されます。これは、既存のデータを並べ替える上で著しい性能改善を実現します。例えば、既存のレコードを既存のフィールドで昇順、降順のどちらかで再ソートするためのフォーム上にリンクやボタンを配置することができます。 NXJ Javadoc で NXJDataView ファウンデーションクラスの sortSelectedSet メソッドを参照してください。

スクリプト機能	
nvarchar と nchar をサポート	MS SQL の nvarchar と nchar データ型のサポートを追加しました。
Float to Numeric	Numerics に Float 値をキャストする機能を追加しました。
NXJ アプリケーションを起動するパラメータの受け渡し	起動 URL の一部として NXJ アプリケーションにパラメータを渡すことができます。これは、非 NXJ アプリケーションから NXJ アプリケーションを正しく初期化するパラメータを渡すために重要なことです。 NXJ Documentation Welcome ページの「Using Application StartUp Parameters」ガイドを参照してください。
エラーハンドラ	NXJ は、SQL とアプリケーションのエラーをハンドラで処理することができますようになります。エラーハンドラは、必要に応じてアプリケーションエラーをキャッチして意味のあるメッセージを提供したり、追加処理の実行を定義できます。
標準化された Date をサポート	NXJDate の getDate と setDate は java.util.Date を使用可能となり、Java.sql.Date や ava.util.Date を渡すことができます。
アプリケーションデザイナーの機能性	
NXJ ツールバー作成	使いやすい NXJ ツールバー作成を実装しました。このツールバーは、NXJ コマンドのすべてをサポートします。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 6 章「Creating a Custom Toolbar, Header, or Footer」を参照してください。
デバッグの改善	NXJ のこのリリースでは、デバッグにかなりの改善を行っています。(ブレークポイント、性能、ライントラッキング)
アプリケーションデザイナーレイアウトの改善	新規及び改善したアイコン、EJB ソースのレイアウト、メニューポップアップの生成、情報のアクセス。
NXJ アプリケーションデザイナーで JSP ファイルの編集	アプリケーションデザイナー エディタ内で JavaScript ファイルの編集する機能を追加しました。これは、JavaScript 言語のカラー構文表示を含みます。
ダブルクリック、シングルクリックオープン	アプリケーションデザイナーに、項目を開く操作をシングルかダブルクリックで指定することが構成可能なプロジェクトオプションが加わります。これは編集->オプション->全般パネルで指定可能です。
エディタのライン番号	エディタにライン番号を表示することが可能になります。これは、編集->オプション->エディタパネルで可能になります。
オブジェクト移動スピードの制御	オブジェクトは、デフォルトでは矢印キーで速く移動することができ、<CTRL>+ 矢印によってゆっくりで正確な移動をすることができます。
自動グループ化	NXJ フォームの要素は、凡例がグループボックス形式に自動グループ化することができます。要望するオブジェクトにボックスを広げるだけでこれらが自動的にボックスに追加されます。
自動ラベル拡張	ラベルは、ラベルの入力によってサイズが拡大します。
アプリケーション統合	
Text/Binary ファイルのアップロード	いかなる種類のファイルでもアプリケーションサーバに、アップロードすることができます。アプリケーションサーバは、そのあと順番に必要とする処理、DB にINSERT や、ファイルシステムに書き込みをすることができます。例えば、ワードドキュメント、スプレッドシートや、イメージファイル等をアプリケーションサーバにアップロードします。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with Text and Binary Data」ガイドを参照してください。
生成された EJB を公開	ビジネスレイヤを説明、公開するために、アプリケーションデザイナーは EJB ソースパネルに生成された EJB を表示します。このコードは、表示されませんが変更はできません。この表示は、アプリケーションデザイナーオプションにより切り換えることができます。 『Unify NXJ Developer's Guide』の第 2 章「Customizing the NXJ Application Designer」の「General Behavior」を参照してください。

NXJ 配備に 非 NXJ サブレットと EJB を含める	NXJ は、NXJ アプリケーションにサブレットと EJB をパッケージ、配備することが可能になりました。NXJ アプリケーションの一部にしたいサブレットや EJB を開発したり購入した場合、この新しい機能により、NXJ プロジェクトの一部としてこれらのオブジェクトをパッケージし、配備することが可能です。 NXJ Documentation Welcome ページの「Working with Servlets」ガイドを参照してください。
パフォーマンス	
実行時の性能の改善	NXJ は数多くの内部機能拡張によって、実行時の性能、メモリ管理、アプリケーションのコードの最適化が改善されています。
リストボックス形式の マスタ / 詳細の改善	マスタ / 詳細リストボックスのレコードをナビゲーションする時の性能は、改善、最適化されています。
リストボックスの 性能向上	データが変わるときに、リストボックスの内容のみが再設定されます。
実行コードがない場合、 繰り返しフィールドは、 サーバと通信しない	伝送されるデータの通信量とサーバへの通信の回数を減らすことによりネットワークトラフィック最適化が改善されました。繰り返し領域のレコードナビゲートを行う時に、実行するコードがある場合、リフレッシュされることが必要なマスタ / 詳細がある場合のみ、NXJ は、サーバと通信を行います。
ドキュメント	
Javadoc の改善	Javadoc が改善され、より多くのコード例が含まれています。
インストール	
NXJ に JDK をバンドル	NXJ は、適切な JDK をバンドルするようになります。JDK のインスタンスは、使用マシンインストール済みのものや、そのバージョンに干渉しません。
スタンドアローン NXJ デモアプリケーション	標準 NXJ インストールの一部としてフラットファイルデータベースと JDBC ドライバを追加しました。このフラットファイルデータベースは、このリリースの一部に含まれる機能豊富な Order Inventory アプリケーションで利用されています。
自動アップグレード	9.1 の NXJ アプリケーションがオープンされると、10.0 に自動的にアップグレードされます。